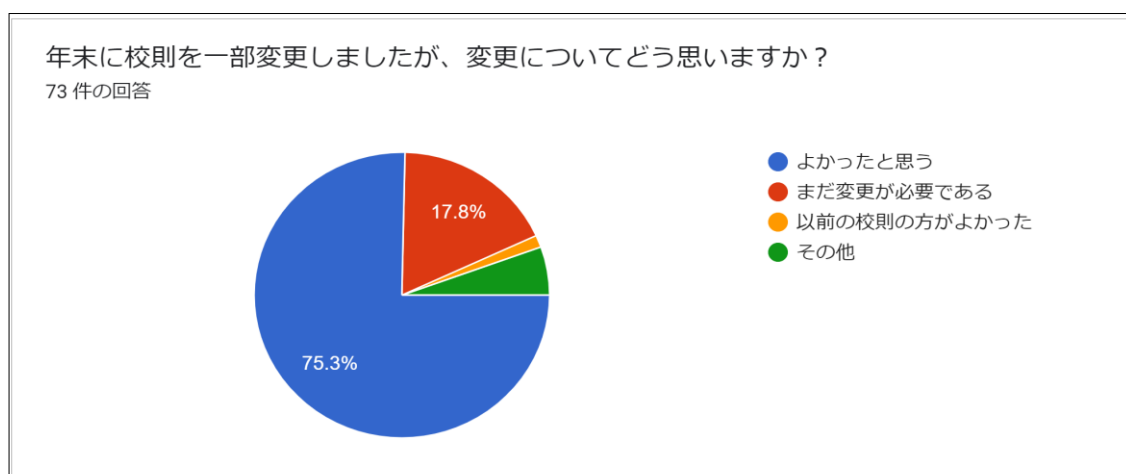


校訓	盡己	令和5年度学校通信 「松中だより」 第30号	発行日	令和6年2月26日
教育目標	未来を創造し、たくましく生きる生徒の育成 ～地域・家庭とのつながりによる レジリエントな学校を目指して～		発行者	伊丹市立松崎中学校 校長 今井 克己

【校則(松中生の心得)見直し保護者アンケート結果】

12月に行った校則(松中生の心得)の見直しについて、保護者の方にアンケートを採らせていただきました。遅くなりましたがアンケート結果をお知らせいたします。73件の回答をいただきました。ありがとうございました。



○「よかった」と回答された方はどの点がよかったですか？

・靴下の色(汚れが目立たない色) ・髪型 ・部活服での下校 ・生徒が納得し喜んで点 ・レギンス、インナージャケット等の防寒対策 ・時代に合っている点 ・自分たちで考えるようになった点

○「まだ変更が必要」と回答された方はどの点が気になりますか？

・靴下、インナーのワンポイント制限 ・冬季の上着 ・インナーの色 ・女子の髪型 ・変更の理由、プロセス、協議の経緯などを明らかにすべき。

○「以前の方がよかった」と回答された方はどの点がよくなかったか？

・しっかりとした校則の中で行動する方が行動しやすいのでは。

○その他

・自由度が増し、喜びにつながっている反面戸惑いも見られる。様子を見たい。 ・3年の大切な時期に変更する必要はない。 ・長袖カッターシャツについて ・体育授業のある日の体操服登校 ・子どもたちが自由とは何かを間違えて欲しくない。

様々なご意見をいただき、ありがとうございました。いただいたご意見を参考に、引き続き、よりよい学校生活のため、見直しを進めて参ります。ありがとうございました。

【卒業に向けて】

3年生の卒業まで、いよいよカウントダウンとなりました。3年生のみなさんにとってこの3年間
はどんなものだったでしょう。3年の間に猛威をふるった新型コロナが2類から5類になり、学校生
活をはじめ社会はコロナ前の形に戻っています。その一方で、世界ではロシアのウクライナ侵攻、イ
スラエル・パレスチナ問題の戦争が起こり、国内では地震、猛暑、豪雨災害などで日常を奪われた
方々もたくさんいます。同じ学年のみんなと共に、普通に過ごせることに感謝しながら、一日一日
を大切に、かみしめながら、過ごしてもらいたいと思います。

以下は昨年PTA広報でも紹介した東日本大震災で大きな被害の出た宮城県気仙沼市立階上(は
しかみ)中学校の卒業式での答辞です。

卒業生代表の言葉

本日は未曾有の大震災の傷も癒えないさなか、私たちのために卒業式を挙行していただき、ありが
とうございます。

ちょうど十日前の三月十二日。春を思わせる暖かな日でした。

私たちは、そのキラキラ光る日差しの中を、希望に胸を膨らませ、通い慣れたこの学舎を、五十七名
揃って巣立つはずでした。

前日の十一日。一足早く渡された思い出のたくさん詰まったアルバムを開き、十数時間後の卒業式
に思いを馳せた友もいたことでしょう。「東日本大震災」と名付けられる天変地異が起こるとも知らず
に…。

階上中学校といえば「防災教育」といわれ、内外から高く評価され、十分な訓練もしていた私たちで
した。しかし、自然の猛威の前には、人間の力はいくらでも無力で、私たちから大切なものを容赦なく
奪っていきました。天が与えた試練というには、むごすぎるものでした。つらくて、悔しくてたまりま
せん。

時計の針は十四時四十六分を指したままです。でも時は確実に流れています。生かされた者とし
て、顔を上げ、常に思いやりの心を持ち、強く、正しく、たくましく生きていかなければなりません。

命の重さを知るには大きすぎる代償でした。しかし、苦境にあっても、天を恨まず、運命に耐え、助
け合って生きていくことが、これからの私たちの使命です。

私たちは今、それぞれの新しい人生の一步を踏み出します。どこにいても、何をしようとも、こ
の地で、仲間と共有した時を忘れず、宝物として生きていきます。

後輩の皆さん、階上中学校で過ごす「あたりまえ」に思える日々や友達が、いかに貴重なものかを考
え、いとおしんで過ごしてください。先生方、親身のご指導、ありがとうございました。先生方が、いか
に私たちを思ってくださっていたか、今になってよく分かります。地域の皆さん、これまで様々なご支
援をいただき、ありがとうございました。これからもよろしく願いいたします。

お父さん、お母さん、家族の皆さん、これから私たちが歩んでいく姿を見守っててください。必
ず、よき社会人になります。

私は、この階上中学校の生徒でいられたことを誇りに思います。

最後に、本当に、本当に、ありがとうございました。

平成二十三年三月二十二日 第六十四回卒業生代表